

2022年8月1日

神戸学園都市 YMCA こども園 8月えんだより

8月の聖句 「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」

テサロニケの信徒への手紙Ⅰ 5章16節～18節

今年の梅雨は、雨らしい雨が降らないままに早々と梅雨が明け、各地で酷暑と水不足が心配されています。同時に、地域によっては局地的な大雨の被害も出ています。神様が「よし」として創られた自然の営みに私たちの傲慢さにより、大きくバランスを崩していることに心が痛みます。30数年前、森林学の先生が、「環境問題への取り組みで最も大切なことは、一人ひとりの気づきと行動」と仰っていたことを思い出します。小さなことでも自分の行動を変化させたいと思います。

子どもたちが楽しみにしていたゆり組のキャンプが延期となりました。これまでのコロナと違い、重症化率が低いこともあって以前のように「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」といった行動規制策はとられていません。多くの人々が旅行や外食、通勤、通学といった日常の活動を取り戻す中、これまでにない勢いでコロナ感染症が広がっています。経済活動や人々の日常生活を守るという観点からすると、ある程度のリスクの中でも必要な変化のようにも感じます。けれども一方では、身近な家族を失ったり、自らが重症化や後遺症に苦しんだりする人もいます。コロナに限らず、様々な災害や疾病等にあった人々は「なぜうちが!？」「なぜ自分が!？」という感情に襲われます。阪神淡路大震災では、子どもの頃に遊んだ街が焼け野原となってしまいました。「これが神様の御心？」と涙が溢れました。多くの人々が絶望感や喪失感に覆われていましたが、一方で、震災の年が「ボランティア元年」と呼ばれ、後の様々な災害などで人々が支え合う大きなきっかけとなりました。世界中を混乱に陥れた今回のコロナ禍でも、多くを失った一方で、コロナの脅威に立ち向かうために業種や国境といった垣根を越えた新たなつながりも生まれています。大切なものや人、そして自由や命までも失った人々からするとあまりにも大きな代償ですが、これも私たち人間の見方、価値観です。神様は私たちの理解を超えた大きな見方、価値観で御心に適った計画を実行されているのではないかと思います。毎日起こる一つ一つの出来事に一喜一憂することなく、喜び、祈り、感謝することを忘れずに歩いていければと願います。私たちは、自分の髪一本でさえどうすることもできないのですから・・・。

8月	乳児 (0,1,2歳児)	幼児 (3,4,5歳児)
月主題	たのしい	たのしむ
月の願い	*夏の生活をゆったり健康に過ごすなかで周囲に興味を広げ、“たのしい”をたくさん感じてほしいと思います。	*暑い気候の中で、家庭や園それぞれの場所でたくさんの人やあそびと出会い、夏ならではの体験を楽しんでほしいと思います。
讃美歌	「どんどこんどこ」 こども改 106	「しずかに しずかに」 こども改 104